

創ります！
笑顔あふれる
まちだ

いわせ和子



「笑顔あふれる町田」
のために働きます！

町田市議会議員
いわせ和子

いつも、温かいご支援をいただき、心から感謝申し上げます。
昨年は、2020東京オリンピック・パラリンピックが開催され日本は、金27個をはじめ史上最多の累計58個のメダルラッシュに沸き感動と歓喜に包まれました。

一方で、2021年も長引く新型コロナウイルス感染症に日本社会全体が大きく翻弄された1年でありました。

いわせ和子は、これからも市民の皆様が感染症対策（新型コロナウイルス等）を含め安全・安心に生活ができるよう、そして、活力あるまちづくりのために、尽力してまいります。

4期16年間、多くの皆様からの信頼と大きな期待に応えるべく、町田市の更なる発展に向け、子育て・介護・暮らしのこと、地域の課題等、様々な問題を皆様と共に取り組み解決してまいりました。

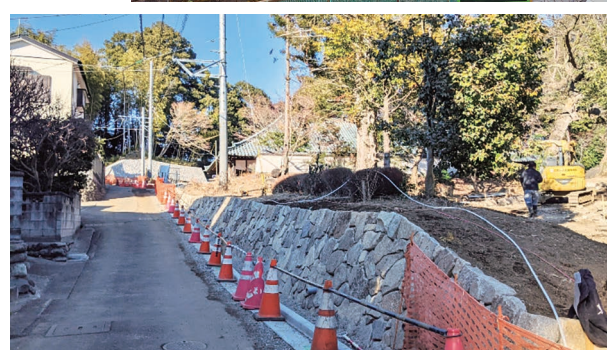
これからも、皆様の声を市政に反映させ、地域に根差した活動と市民の皆様一人ひとりの明るい未来を創るために働かせていただきます。
今後も更なるご支援・ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。



地域の皆さんと一緒に



金井4号緑地の
法面整備



鶴川駅前「香山園」の脇道の道路拡幅

玉川学園駅前歩道橋開通と
玉川学園コミュニティセンター開所



いわせ和子プロフィール 3月11日生まれ（細野和子）まちづくりと子育てに奮闘中！

【学歴】町田市立小山小学校卒業、桜美林中学校・桜美林高等学校卒業、桜美林短期大学家政科卒業
【経歴】(株)大塚商会、元都議会議員秘書、地元学童保育クラブ父母会会長、地元子供会会長
【現在】町田市議会議員（2006年初当選、現在4期目）
自由民主党会派代表、自由民主党町田総支部財務委員長、文教社会常任委員会委員
東京都後期高齢者医療広域連合議会議員、町田市倫理法人会幹事、国際ソロプチミスト町田副会長、
保護司、明治神宮崇敬会会員、自衛官募集相談員、日本ボーイスカウト東京連盟町田第20団団委員
【資格】中学校教諭免許、秘書技能検定2級、ホームヘルパー2級、色彩能力検定2級
【家族】夫（先祖は、明治の自由民権運動家 細野喜代四郎）、長男、猫（チビ、デコ、ペコ）
【父母】父母は、小山町に在住 父 岩瀬雄二（元市議会議員5期20年）
【趣味】旅行・フラワーアレンジメント

♥いわせ和子はFC町田ゼルビア・ASVペスカドーラ・キャノンイーグルスを応援しています♥



あなたに代わって質問します。

いわせ和子議会質問

暮らしの疑問、地域の困りごとをお知らせください。



令和3年定例会 代表質疑

〔質問〕令和3年度市政運営について

〔答弁〕市民の生活や市内の経済活動を支える事業、アフターコロナを見据えたデジタル化等の新たな課題に対応すべき事業、町の魅力向上につながる事業を重点的に取り組むなど、緊急性や費用対効果が高い事業に絞って編成を行い、事業の優先順位付けを行い実施時期の見直しや廃止・縮小など事務事業の抜本的な見直しを図り、選択と集中を徹底し、私たちが直面しているピンチをチャンスに変える、積極的な投資を行っている。

〔質問〕町田市バイオエネルギーセンターの特徴は。

〔答弁〕ごみ焼却熱を回収するとともにバイオガス化により、燃やせるごみの持つエネルギーを高効率で電気エネルギーに変えることができる施設です。また、災害時に電力供給が途絶えても施設内で電気を発電する事ができ防災拠点としても活用できる。

〔質問〕原町大通りにどのような将来像を描いているのか。

〔答弁〕将来は、多摩都市モノレールの導入空間となり、大事なコンセプトは、ウォークアブル、つまり居心地がよく、歩きやすい町です。国は19年から、居心地がよく、歩きやすい街路づくりに取り組んでおり、市もウォークアブル推進都市として取り組みを推進していく。

〔質問〕芹ヶ谷公園芸術の杜について

〔答弁〕芹ヶ谷公園の豊かな自然を感じながら多様なアート活動に五感を通じて触れられる「ここ」ならではの価値を創出する。その活動を町なかにも広げ、より多くの来街者が訪れるまちづくりを目指し、原町田大通りの取り組みと連携し、町なかとのつながりをより一層強化していく。

〔質問〕多摩都市モノレール



町田市議会本会議録画から

ルの延伸について

〔答弁〕モノレール延伸の準備となる中心市街地、木曽山崎団地、忠生・北部エリアの3つの街づくりの方向性は、延伸を契機としたプロジェクトを打ち出し、人々の活動や交流を高める拠点へと生まれ変わらせる取り組みを進めていく。

〔質問〕鶴川駅周辺エリアは、どのように変わっていくのか。

〔答弁〕交通広場拡張に併せ商業機能の強化、誘導を図り、区画整理区域においては商業や業務、中高層住宅等による新たな駅前空間が形成され、駅も街のシンボルとして生まれ変わり、駅周辺はますます活力と魅力にあふれた東の玄関口とする。

〔質問〕相原駅周辺エリアは、どのように変わっていくのか。

〔答弁〕生活中心地にふさわしい土地利用の誘導を道路整備と併せて行い、生活の利便性の高いまちづくりを進め今後、本格化する町田街道の大戸踏切立体交差化事業や東口交通広場へ至るアクセス道路整備に併せた駅周辺のまちづくりを進めていく。

〔質問〕行政経営改革の取組について

〔答弁〕①政策的事業において、選択と集中の考え方により事業の見直しをおこなう、市民の生活や市内経済を支える施策を最優先に実行し、コロナ禍においても基礎自治体としての責務を果たしていく。②市民生活に影響の少ない業務の中止、縮小を行い、デジタル技術の活用により、市役所業務の生産性の向上に向けた見直しを行い、市役所全体の時間外勤務を2019年度と比較して30%削減という目標を掲げ2021年度の予算編成では、2020年度予算と比較して事業費ベースで約7億1,900万円削減した。将来にわたって適切な市民サービスが提供できる財政基盤をつくる。

〔質問〕新たな学校について

〔答弁〕2040年度に実現を目指す新たな通学区域に加え、学校統廃合時などにおいて建て替えを行う際の学校施設整備の基本理念として「教育環境、生活環境」「放課後活動の拠点」「市民生活の拠点」の3つの基本理念等が議論されており、今後の町田市立学校を整備する上では、ICTを活用した教育活動が一層推進されることが見込まれる。将来において

子ども達が学校に通学して学ぶ意味を踏まえた新たな学校づくりが求められた。また、学校施設の地域開放や他の公共施設等との複合化により多様な人々が学校に集い、交流し活動する愛着のある地域拠点となるような新たな学校づくりが求められる。このような考え方を（仮称）町田市新たな学校づくり推進計画に位置づけていきたい。本計画の策定後は、適正規模、適正配置を契機とした新たな学校づくりを計画的に推進していく。

令和3年3月定例会 一般質問

○不登校児童生徒について

〔質問〕町田市の不登校児童・生徒の人数不登校児童に対する、新たな取り組みを。

〔答弁〕2018年、小学生162人、中学生494人、2019年、小学生210人、中学生564人。不登校児童生徒は年々増加しており、不登校児童生徒の学校復帰に向けた指導、支援を行う適応指導教室の拡充やフリースクールとの連携の推進をすすめている。また、不登校児童の生徒の中で、適応指導教室に通うことが難しい児童生徒に対しても、タブレット端末を貸与し、ミート機能を活用し家庭と教室をつなぐことや、ドリルソフトなどの学習支援コンテンツを活用した個別最適化の学習に取り組むこと等の手立てについて広げていく。

〔質問〕夜間中学について

〔質問〕町田市にも「夜間中学校」を設置し、中学校を卒業していない方の「学び直し」の場の提供をするともに不登校の児童生徒の学齢生徒の受入れを可能に。

〔答弁〕2020年4月現在、都内は8校、多摩26市では八王子市に1校設置されている。設置課題は市民のニーズの把握、設置の際の財政上の負担や教職員などの人材の確保及び設置場所の確保などが想定される。市は現在、夜間中学を設置する予定はないが、相模原市では2022年4月に設置予定で、夜間中学の設置に至った経緯や設置手法などを確認していく。

〔質問〕要望 菅総理大臣は、夜間中学の設置について、今年1月の衆議院予算委員会、「不登校などで十分に教育を受けられない人たちの学習機会の確保として、今後5年間で全ての都道府県と政令指定都市に少なくとも1か所ずつ設置することを目指す」という考えを示した。町田市にも夜間中学の設置を要望する。

○鶴川地域の移動支援について

〔質問〕鶴川地域でオンデマンド交通の検討を。

〔答弁〕オンデマンド交通Eーバスの実証運行は、山崎町周辺において、小田急電鉄（株）が主体となり、郊外住宅エリアにおけるオンデマンド交通の需要や、インセンティブを活用したオフピーク利用促進効果等の検証を目的に、これまで2回実施した。市は、実験で得た知見や地域の実情などを鑑みながら、オンデマンド交通の実現可能性を検討し、どのような移動手段が地域にとって適切であるか今後検討していく。

令和3年6月定例会 一般質問

○中学校給食センターによる全員給食の早期実現を求める

〔質問〕候補地は。

〔答弁〕建設候補地は、「旧忠生第六小学校」、成瀬クリーンセンターの西隣の「東光寺公園調整池」、「金井スポーツ広場」として活用している学校用地の3カ所。選定の考え方は、市内中学校のすべての生徒・教職員に対して給食を提供するためには、給食センターの調理食数を「1万2千3千食」とすること。学校給食衛生管理基準に則り、各学校への配送時間を「45分以内」とする。これら条件に適合（かな）候補地を選定した。「旧忠生第六小学校」は、「町田市木曾山崎団地地区まちづくり構想」を踏まえ、スポーツの場を含めた健康増進関係拠点の形成に取り組む中で、「食による健康増進」の観点から、給食センターの整備に取り組む。「東光寺公園」は、成瀬クリーンセンターの西隣、恩田川沿いにあり、約3千㎡の都市公園区域のうち、約2千㎡を雨水調整地の雨水調整機能を維持しながら、この上部空間を利用して、給食センターを整備する。「金井スポーツ広場」は、グラウンド部分は存続させつつ、南東角にある現在のテニスコート及び、ゲートボールコートとして利用されている部分に、鶴川地域の中学校に届けるための給食センターを整備する。このように、3カ所に給食センターを市内に分散配置することで、すべての中学生に温かくて美味しい給食を届けるとともに、地域生活にも積極的に関わりを持ちながら食の拠点として、地域の中で機能させていきたい。

〔質問〕給食センターを市内3カ所に分散配置する意義や効果は。

〔答弁〕①衛生基準を踏まえつつ、配送時間を出るだけ短くし、出来立ての温かい給食を早く届ける（45分以内）②1か所ですべての都道府県と政令指定都市に少なくとも1か所ずつ設置することを目指す」という考えを示した。町田市にも夜間中学の設置を要望する。

で、分散配置は効果的と考える。③地域防災上の効果で、食糧備蓄や炊き出し機能などセンターに「食に関する防災機能」を搭載し、地域に分散して配慮することで、各々の地域防災力向上に寄与する。

〔質問〕金井スポーツ広場は、新たな学校づくりにおける新小学校候補地となっている。その将来利用を鑑みると、給食センターとして10年程度の利用となる。この場所に給食センターを配置する事とした理由は。

〔答弁〕建設候補地の検討にあたっては、鶴川地域をくまなく探したが、金井スポーツ広場以外に、現時点で土地利用をしていない、まとまった規模の市有地がなく、将来的に学校統合がされた後の学校跡地を活用するほかにない状況にある。学校統合後のセンター整備となると鶴川地域に全員給食を導入する時期が10年近く遅れる。また、鶴川地区内の現在の中小学校の施設状況から、自校式や親子式での早期の全員給食導入は不可能である。新しい小学校が設置されるまでの間、10年程度の稼働となるが、金井スポーツ広場として利用している学校用地の一角を先んじて活用してセンターを整備する事が適当と考えた。

〔質問〕全員給食導入の目標時期は、いつになるか。

〔答弁〕今度中に、給食センターの基本計画をまとめ、来年度に事業者を選定し、速やかに整備に取り掛かっていく。1カ所については、2024年度中、2カ所、3カ所目についても同時並行で進めて2025年度中には、それぞれスタートさせ、中学校全員給食の導入を完了したい。

○病児病後児保育事業の更なる取り組みについて

〔質問〕スマートフォンのネット予約サービスができる「あずかるちゃん」の導入を。

〔答弁〕稲城市の事例なども参考に、また、町田市の病児病後児保育施設の一部施設においてネット予約を既に導入している事例もある。まずは情報を収集し、整理した上で事業者に働きかけていく。

令和3年9月定例会 一般質問

○新型コロナウイルス感染症について

〔質問〕町田市民病院の現状と課題は

〔答弁〕現状は、市民病院は通常の二次医療、二次救急医療に加え、東京都新型コロナウイルス感染症入院重点医療機関として、新型コロナウイルス感染症患者の治療を行っている。今回の第5波により、発熱を含む救急来院患者が著しく増加しており、中等症で入院した患者が重症化する傾向もある。6月からは新型コロナウイルスワクチンの個別接種会場として、週当たり600回の接種を実施。課題は、市民病院が多く回の業務を担うことにより、職員への身体的

な負担、精神的なストレスが続いていること。と。

〔質問〕妊産婦が安心してワクチン接種ができる体制作りを。

〔答弁〕新型コロナウイルス感染症に関する妊産婦の受入れについては、主に総合周産期母子医療センターが担っていたが、感染拡大第5波を受け、地域周産期母子医療センターである市民病院でも受入可能な妊婦の受入れを担っていく。

要望 東京都は自宅療養中の中等症患者に向け、板橋区の豊島病院と多摩市の多摩南部地域病院、東村山市の東京都保健医療公社多摩北部医療センターに酸素ステーションを設置した。また、八王子市では入院待機ステーションが既に開設されている。町田市にも設置を要望する。

〔質問〕学校感染をどう防ぐのか。

〔答弁〕感染が不安で登校することができない児童生徒への丁寧な対応を一層取り、学校行事や学校公開等への計画の見直しをする。部活動は原則、中止とし、大会やコンクールなどへの必要な練習や生徒の心身の健康の保持に配慮した必要最低限の活動とした。家庭での感染症対策は、学校から家庭に対して改めて一層の徹底をお願いし、学校における感染拡大の未然防止に取り組んでいく。教育委員会では、緊急事態宣言下において学校で行ってきた新型コロナウイルス感染症対策をこれまで以上に徹底しながら、学校運営を継続することを決定した。

〔質問〕感染予防の観点から、オンラインによる授業の実施を。

〔答弁〕現在の感染拡大の状況を踏まえ、これまで以上に感染予防や感染不安により登校することができない児童生徒が増加することが予想され、該当する児童生徒等に対して、各学校で家庭と連絡を取り、児童生徒の状況を把握するとともに、ホームルームや面談をオンラインで行い、授業の様子を配信するなど、体制を整え、可能な限り実施する。

〔質問〕新型コロナウイルス感染症陽性と判断された児童・生徒やワクチン接種をしていない児童・生徒にいじめや差別が起きないか危惧しているが如何か。

〔答弁〕市は、小中学校の児童生徒の発達段階を考慮し、感染症予防をより一層行いながら登校し、対面での授業を行うことが必要と考え、その方針を基本とし、授業のオンライン対応についても実践事例を増やしていく。

〔質問〕鶴見川クリーンセンターに整備されるゼルビアの練習場について

〔質問〕ブランドの市民利用を。

〔答弁〕FC町田ゼルビアの練習との兼ね合いも含め、運営協議会で検討する。この用地の利活用を通じて、市民誰もがスポー



ツに親しめる環境づくりや地域全体の活性化を進める。具体的には、散策路を開放しウォーキングやグラウンドの脇でキャッチボール、ミニサッカーなども想定している。ピジター用クラブハウスは、周辺住民の方の憩いの場として使用できるようにする。

令和3年12月定例会 一般質問

○带状疱疹ワクチンについて

〔質問〕ワクチン接種費用の助成を。

〔答弁〕現時点で助成をする予定はなく、定期予防接種などの国の動向や、近隣自治体の状況について引き続き注視していく。

〔質問〕带状疱疹ワクチンは、認知度が低い状況。市のホームページや保健所が発行する「みんなの健康だより」等で市民に対して周知することの検討を。

〔答弁〕带状疱疹の疾患の特性、治療法やワクチン接種を含む予防策などを伝え、町田市医師会との連携も検討する。

○衆議院選挙を振り返って

〔質問〕衆議院議員選挙の町田市の投票率は、57・92%で、4年前の衆議院選挙と比べて2・73ポイント上昇。東京都全体を0・71ポイント上回った。年代別の投票率では10代では4・54ポイント、20代では5・28ポイント、4年前より上回った。

『投票用紙の誤交付という』初歩的な事故が生じたが選挙の効力に影響を及ぼすような重大な事態が生ずることなく執行できた。

〔質問〕投票の利便性を向上させるため「共通投票所」の検討を。

〔答弁〕市では、期日前投票では11カ所の投票所をネットワークで繋ぎ、共通投票所として運用しているが、当日投票所については、ネットワークが繋がっていないため、共通投票所として運用することができない。選挙管理委員会は、小中学校を含む公共施設再編による投票環境への影響などの対応として、共通投票所も一つの方策であると捉えており今後、5GなどICT環境の整備状況を見据えつつ、他の自治体の動向を注視し研究していく。

要望 立地的に、移動が困難な有権者の為の投票所への移動支援や移動期日前投票所の設置など、投票率向上への有力な手立てであるので検討を。また、町内会自治会などで、会館の改修工事を検討される際は、投票所として利活用できるか視野に入れ検討することを要望する。

※質問事項を要約して報告させていただきました。詳しくはホームページをご覧ください。